

## 解説



## 編集委員座談会

## QE スクエアの問題と改善

*Issues and Improvements of QE Square*

出席者：矢野耕也（日本大学）、明吉秀樹（明吉事務所）、植 英規（福島工業高等専門学校）、窪田葉子（日本水環境学会）、坂本雅基（花王）、見原文雄（日本能率協会コンサルティング）、細井光夫（コマツ）、水谷淳之介（富山高等専門学校）、吉原 均（キャンノン）

## 1. QE スクエアの位置づけ

**坂本** 時間になったので座談会を始めたい。2019年9月の投稿規程改定時にQE スクエアを新設して19年10月に募集開始、20年4月から掲載開始、20年12月の会告で改めて周知した。投稿規程（報文の種類）では、査読対象となる「論文等」（研究論文、論説、解説）とは別に、会員間の交流や情報交換等の内容を含む記事や「・・視点」等があり、この中にQE スクエアが入っている。内容は「会員に対する提言、提案紹介など会員間の意見交換としてふさわしい記事」としている。執筆細則では刷り上りで3ページ以内を目安とし、実際の掲載ページ数は2から4ぐらいだったが、去年くらいから6、7ページになり、ページ数が多いというコメントがあった。

**矢野** 論文投稿をして掲載否になったものをまるごと全部載せていいのかという意見があった。査読で掲載否になったものが論文でなくても全文掲載されたら、掲載と同じことになってしまう。また、図表の大きさや位置、冒頭ヘッダー部分の影響で、刷り上がりページ数が多くなることもある。

**窪田** 短くしなければ載せないと思べきと思う。

**坂本** 3ページ以内を目安に弾力的な運用をしてきた。3ページ以内を厳格に運用する方が良いか。

**矢野** 6ページ以内を目安に投稿時に6ページでも編集や印刷の段階で10ページになるものもある。一時期、6ページ以内に無理をして切りつめて不完

全な内容で投稿となったケースもある。原則や目安に対して、どこまで許容するか。

**水谷** 編集を担当していると、ページ数の制限を意識して図を非常に小さくしてページ数の目安に収めている場合がある。そのまま印刷したら図中の文字が見えなくなるため、図を大きくして掲載した結果ページ数を大きくオーバーしてしまう。

**矢野** 大きな図表を縮小して貼っている場合、どうしても図が大きくなってしまい、投稿者の想定よりページ数が増えてしまう。

**吉原** 論文投稿では、文字と図表を別に投稿するのか、それとも綺麗にレイアウトして投稿するのか。

**坂本** 執筆細則では、図表を組み込んだ形での原稿提出をお願いしている。執筆細則のその他の注意事項で「最低限認識可能な大きさ」としているが、図表の見やすさまで細かく規定していない。

**吉原** 図表の中の文字が読めないの、二段組のレイアウトを一段組に変えて図を大きくしてもらったことがある。編集を担当する論文について図表が読めない大きさの場合、図を全幅に広げて読めるようにしてもらうことも提案した。

**坂本** 編集委員が対応してもよいが、できれば著者にその辺も意識して投稿していただきたい。

**吉原** 大きい小さいではなく、図表に使う文字は何ポイント以上と具体的に指示したほうが良い。

**坂本** 小さい文字で書いてきた人がいたら、こういう形に修正してくださいと指示するために、規程に示しておくことは有効かもしれない。学会員の皆さ